

エイジ競技規則 2018野尻湖トライアスロン in 信州信濃町

<総則>

- ・本大会の競技規則は、一部ローカルルールを除き、JTUが定めるトライアスロン競技規則に準ずる。参加選手は、大会役員(競技役員・コース監察員等)の指示には速やかに従うこと。
- ・競技内のペナルティーは、タイムペナルティーを適用する。
- ・参加選手が競技規則に違反した場合は、失格になる場合がある。
- ・競技役員は、競技違反した選手の失格を宣言する権限を持つ。
- ・競技役員は、参加選手の競技続行が当人の健康を害したり、障害・致死の恐れがあると判断した場合には、競技を辞めさせる権限を持つ。
- ・参加選手はスポーツマンシップを持って行動し、競技中は安全を第一に考え、お互いに迷惑になるような行為はつづしむ。
- ・ドーピング行為を禁止する。検査には協力すること。
- ・参加選手は節度ある人間として行動し、いかなる場合でもマナーを忘れてはならない。
- ・参加選手は自ら競技を断念する場合は、直ちに競技役員に申し出て大会本部に通告する。
- ・原則として本人が大会本部で報告書に署名し、アンクルバンドを返還する。
- ・参加選手は、事前の競技説明会に必ず参加すること。
- ・レースナンバーは、バイク競技は背面、ラン競技は前面につけること。
- ・レースナンバーベルトの使用を認める。(レースナンバーの確認が明確にできるよう装着すること。)
- ・計測には、アンクルバンドを使用する。
- ・指定された場所でのトランジット(リレーの部は、アンクルバンド交換)を行うこと。着替えは指定された場所以外ではできない。
- ・大会当日の気象による大会の開催及び中止についての権限は実行委員会にある。大会の安全確保のため、大会当日において気象警報が発令の場合は競技を中止し、また気象注意報が発令の場合は波高、速さ、視てい、水温等実情を考慮して、距離の短縮、コースの変更など実行委員会の権限において決定する。大会中止等の情報は大会当日午前6時をめぐり大会ホームページ等で周知する。
- ・気象警報発令等の気象状況の悪化、地震などの発生により競技途中で中止となった場合、記録はノーコンテストとし、レース内容は選考の評価に加える。(上位1名が総合フィニッシュした時点で競技成立と考える。)
- ・前空きの競技ユニフォームの使用を禁止する。ただし、リレーのバイクパートにおけるバイクジャージ着用については、前ファスナーを下げないことを条件として使用を認める。
- ・競技中に限らず、公園内や公道上で更衣をしたり、上半身裸のまま移動する事など無いようにして下さい。トライアスロンを今後も楽しく続けていくためにも、ユニフォームルールについて出場される選手の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

<スイム>

- ・スイムは1周750mのコースを2周する、1500mのコースとする。(周回時、上陸する)
- ・スタート時間は8時30分(2回に分けて5分おきのウェーブスタートとする。)
- ・1周目スイムスタートは湖中からのスタンディングスタートとする。水位の関係で変更の場合は競技説明会で告知する。また、2周回目の入水は脚からとし、頭からの飛び込みは禁止とする。
- ・フライングについては、タイムペナルティを課す。
- ・競技はJTU競技規則第60条を充たすウェットスーツを必ず着用しなければならない。
- ・ウォームアップスーツの使用は認めない。
- ・競技者は主催者より支給されるスイムキャップを必ず着用しなければならない。
- ・ゴーグル及びノーズクリップ等は着用することができる。
- ・低水温時には各自保温対策に万全を期すこと。
- ・スイムスタート前、トランジション会場で、アンクルバンドを受け取り、各自足首に装着した後、スイムエリアに入場すること。(アンクルバンドのナンバーを各自レースナンバーと照合すること。)
- ・スイムウォーミングアップは7時40分から8時20分までとする。
- ・スイムゲート通過後はスタートエリアから外に出ることはできない。
- ・スイムの制限時間をスタートより60分(スイムフィニッシュ計測時)とする。この時点で通過できない選手は失格とする。また、1周回目上陸時においても、制限時間30分を設けるものとする。
- ・スイム競技の安全性の確保、競技者の安全面から、競技役員は制限時間内に完泳できないと判断された者にリタイアを勧告することができる。
- ・大会当日の体調により不安を感じる者は、アンクルバンド受け取り時に申告することによりスイムスキップできる。(ただしDNF扱い。またバイクスタート時刻については技術代表判断とする。)

- ・スイムスタート後のリタイヤは、次のバイク・ラン競技に移ることができない。
- ・リレーの部 (スイム→バイク) リレーポイントはトランジション内の指定エリアとする。

<バイク>

- ・バイクコースは1周約15kmのコースを3周回する45km のコースとする。
- ・周回数の把握は選手自身で行うこと。確認のためのサイクルコンピューター装着を推奨する。
- ・自転車はロードレーサーとする。なお、エアロバーなどの補助ハンドル類の取り付けを認める。
- ・使用する自転車は、各自で事前に安全確認をすることを義務付ける。(受付時のバイク・ヘルメットチェックはありませんが、セルフチェックシートを必ず提出のこと。)
また、オフィシャルメカニックはありますが、すべてに対応できるものではありません。(部品交換を要する整備には対応できない場合があります。)
- ・大会側で準備したレースナンバーシールは、指定の箇所に貼り付けること。
- ・バイクトランジットエリア内は乗車禁止とする。
- ・キープレフトを厳守すること。
- ・ドラフティングは禁止する。コース上で違反行為があった場合は、タイムペナルティーを課す。
- ・コースは急カーブや起伏のあるテクニカルコースであるため、DHポジションでの走行は推奨しない。
- ・コース上には、マンホールや路面の荒れなど危険個所がある。危険回避の為、予告看板やコーンの設置に十分注意を払うこと。
- ・事前のコース試走を強く推奨する。コース試走にあたってはヘルメットを必ず着用し、交通法規を遵守すること。
- ・自転車のトラブルは自己の責任において処理し、リタイヤする場合は安全な場所で回収車を待つこと。
- ・エイドステーションは1箇所。給水の際は後続車に注意しながら左に寄り停車すること。
- ・バイクの制限時間はスイムスタート後3時間 (ランスタート計測時) とする。この時点で通過できなかった選手は失格とする。
- ・ヘルメットのストラップはバイクをバイクラックから取り外す前にしっかりと締め、バイクフィニッシュ後もバイクをバイクラックにかけてからストラップを外すことを義務づける。
- ・リレーの部 (バイク→ラン) リレーポイントはトランジション内の指定エリアとする。バイクラックにバイクを設置してからリレーすることとする。
- ・バイクコースの逆走は認めない。遺失物などトラブルで引き返す必要が生じた場合は、他の選手の走行を妨げないことを前提とし、徒歩で移動し対処することができる。
- ・コースを誤った選手は、他人の助力を得ることなく引き返しコースに戻り、競技を続けることができる。
- ・競技者は自らの責任においてコースを熟知しなければならない。口頭による説明が理解できなかったという理由、観客の誤った指示、方向標識の不整備または三者による置き換え等々いかなる理由といえどもコースの誤走についての異議は認められない。

<ラン>

- ・ランコースは片道5.5kmを1往復する11kmのコースとする。(全行程左側走行)
- ・エイドステーションは4箇所に設置する。
- ・脱水に注意し、こまめな給水を心掛けること。
- ・総合フィニッシュの制限時間はスイムスタート後4時間30分とする。この時点で通過できない選手は失格とする。
- ・総合フィニッシュ前にサングラスを外すことを推奨する。

<異議申立て手続き>

- ・競技役員の判定、または他の競技者の行為に対して異議の申立てを希望する参加者は競技終了、または棄権から1時間以内に書面をもって審議委員会に申し出ること。この意義申し立てに対して審議委員会が協議し裁定する。この裁定は最終権限をもつ。また、リザルト(記録)に関して審判長が署名をしたのち、異議申し立てがない事を確認し、技術代表が署名をする。

時 間 \ 種 目		スイム (1.5km)		バイク (45km)	ラン (11km)
種目別制限時間			60分	120分	90分
累計制限時間		スイムスタート	60分(1時間00分)	180分(3時間00分)	270分(4時間30分)
制限時刻	第1ウェーブ	8:30	9:30	11:30	13:00
	第2ウェーブ	8:35	9:35	11:35	13:05